

# 令和7年度 病害虫防除技術情報 第12号

令和8年3月18日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

## 麦類赤かび病の対策について

令和8年産の麦類については、平年より出穂が早く、防除適期が早くなる見込みです。赤かび病の防除は、小麦・裸麦では開花最盛期、二条大麦では葎殻抽出期に1回目を行い、その後、麦種に応じた適期に2回目を行きましょう。

### 1 麦類の生育状況

- (1) 3月中旬に、二条大麦で既に出穂が始まっている圃場が確認されています。圃場によって出穂期が大きく異なる可能性がありますので、出穂期の確認を行きましょう。
- (2) 防除適期の目安は、出穂期から予測することが可能です。農林水産研究指導センター水田農業グループ(宇佐市)によると、出穂期はニシノホシ(二条大麦)及びチクゴイズミ(小麦)ともに1週間程度早くなることが予測されています(3月18日時点)。

適期 (11月下旬)	品種	出穂期 (予測)	平年比	平年日
	ニシノホシ	3月25日	-6	3月31日
	チクゴイズミ	3月28日	-7	4月4日

注) 出穂期の予測は今後の気象条件等により変動する場合があります。

最新の情報は農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループ参照

<https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/>



## 2 今後の気象情報

- (1) 3月12日に福岡管区気象台が発表した「九州北部地方1か月予報」（3月14日から4月13日まで）は以下のとおりとなっており、高温傾向で推移する可能性が高いと予想されています。

	平均気温（向こう1か月）	降水量（向こう1か月）	日照時間（向こう1か月）
九州北部地方（山口県含む）	低10 並20 高70% 高い見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み	少20 並40 多40% 平年並が多い見込み
数値は予想される出現確率（%）です	<p>平均気温（1か月）</p> <p>低い確率（%） 50 40 40 50 高い確率（%） 7-平年並を40%以上</p>	<p>降水量（1か月）</p> <p>少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%） 7-平年並を40%以上</p>	<p>日照時間（1か月）</p> <p>少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%） 7-平年並を40%以上</p>

福岡管区気象台のホームページから抜粋。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010900&term=P1M>



## 3 赤かび病

### (1) 感染時期と防除適期

ア 小麦及び裸麦では「開花最盛期から10日程度の間」が最も感染しやすく、二条大麦では「葯が出始める時期」に感染しやすいため、この間に降雨が続き気温が高いと多発しやすくなります。今後の気象状況に注意してください。

イ 防除適期は以下の「防除上注意すべき事項」を参照してください。

### (2) 防除上注意すべき事項

ア 出穂時期に注意し、防除適期を失しないようにする。

イ 小麦及び裸麦では、開花最盛期から10日後までが最も感染しやすい。そのため、開花最盛期とその7～10日後に2回薬剤散布を行う。なお、開花最盛期は、裸麦で出穂5～7日後、小麦で同7～10日後である。

ウ 二条大麦では、葯殻抽出期（葯の出始め）にあたる穂揃い約10日後（出穂12～14日後）に最も感染しやすいため、この時期とその7日後の2回薬剤散布を行う。

エ 開花最盛期や穂揃い期の判別は困難なため、出穂期（全茎の40～50%が出穂した時期）を把握し、防除計画を立てる。

オ 防除適期が短いので、降雨が続く場合は合間を見て散布する。

カ 2回目の防除適期を過ぎていても、感染しやすい条件に該当する圃場では1回目防除の20日後くらいまでに2回目防除を行えば防除効果が期待できる。

キ 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」の「麦類」の項目及び産地の防除暦等を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。

#### 4 その他（小麦黄斑病、大麦網斑病）

##### （1）感染時期と防除適期

- ア 小麦黄斑病は、前年の罹病残渣が伝染源となり、春先に下葉から症状が現れます。
- イ 大麦網斑病は、種子伝染するとともに、前年の罹病残渣が伝染源となり、春先に下葉から症状が現れます。
- ウ 防除適期は以下の「防除上注意すべき事項」を参照してください。

##### （2）防除上注意すべき事項

- ア 通常、赤かび病との同時防除を行うが、発生が多い場合には早めの防除を行い、防除適期を失しないようにする。
- イ 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」の「麦類」の項目及び産地の防除暦等を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。

大分県農林水産研究指導センター農業研究部 病害虫対策チーム

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

